

[解答例]

1

| 学年 | 組 | 出席番号 | 名前 |
|----|---|------|----|
| | | | |

| | |
|-----|--|
| (1) | <p>・新品種の長さ67cmの67 ア</p> <p>① ・今までの品種の長さ88cmの88 イ</p> <p>・今までの品種の長さをもとにした新品種の長さは□倍 エ</p> |
| | <p>② (式)</p> $67 \div 88 (=0.761\cdots)$ |
| (2) | <p>【いずみさんの説明】 (例)</p> <p>12000は使用できる米の重さ(g)で、150は米1合の重さです。 $12000 \div 150$ は使用できる米が何合分あるかを求める式です。</p> |
| | <p>【まことさんの説明】 (例)</p> <p>12000は使用できる米の重さ(g)で、$30 + 118$は参加者全員の人数です。 $12000 \div (30 + 118)$ は、参加者一人あたり何gの米が使用できるかを求める式です。</p> |
| (3) | <p>【例1：はるかさんの考え】</p> <p>$150 \div 2 = 75$ から、おにぎりを1こ作るのに75gの米がいることがわかります。 $12000 \div 75 = 160$ で、12kgの米で160このおにぎりを作ることができます。</p> <p>参加者は、$30 + 118 = 148$ から、148人です。 だから、全員に1こずつおにぎりを配ることができます。</p> |
| | <p>【例2：いずみさんの考え】</p> <p>$12000 \div 150 = 80$ から、12kgの米は80合あることがわかります。 1合の米でおにぎりを2こ作るので、80合の米では、$2 \times 80 = 160$で、160このおにぎりを作ることができます。</p> <p>参加者の人数は、$30 + 118 = 148$ から、148人です。 だから、全員に1こずつおにぎりを配ることができます。</p> |
| | <p>【例3：まことさんの考え】</p> <p>$12000 \div (30 + 118) = 81.08\cdots$ から、一人分のおにぎりを作るのに $81.08\cdots$gの米が使用できることがわかります。</p> <p>$150 \div 2 = 75$ から、おにぎり1こを作るのに75gあればよいこととなります。</p> <p>だから、全員に1こずつおにぎりを配ることができます。</p> |